

大学院特別講義（2008年6月4日）

「精神障害患者の歯科治療の考え方」

国立精神・神経センター病院

中村廣一 歯科医長

精神に障害を持つ患者の歯科治療はとかく敬遠されがちである。その原因は精神障害がわれわれ歯科医にとって馴染みのない疾患概念であり、その罹患患者の考え方や行動の得体の知れなさにある。歯科医の忌避感情は特に統合失調症患者に対して顕著である。演者は国立精神・神経センターに所属して入院患者を中心にその歯科治療をおこなってきた。その経験を通して精神障害患者の歯科治療の根本的問題が患者－治療者という人間関係の中にあるという見解を今のところもっている。今回の講義では、精神障害者の中でもコミュニケーションの面で問題点を有する統合失調症を中心に採りあげ、われわれ歯科医の本症患者へのかかわり方を中心にざっくばらんなお話をしてみたい。

